

図書館だより11月号

令和3年11月30日
万代高校図書館

水都祭、楽しかったですね。制約がある中で、それぞれ工夫しているのが分かる素晴らしい展示と発表でした。廊下を歩く皆さんのコスチュームなども可愛らしくカッコよく、素敵でした。

図書館では、図書委員会の古本市を開催しました。私は4階5階に時々、お客さん集めにお邪魔しました。見に来てくれた皆さん、ありがとうございました！

さて、秋はあっという間に過ぎ去って、寒い冬がやってきますね。あたたかい服装で、あたたかい食事をとって元気に過ごしてくださいね。また、寒い季節は気持ちも沈みがちです。上手に自分をゴキゲンにして、心もあたたかく過ごせると良いですね。運動をしたり、好きな音楽を聴いたり、時には、ふと手に取った本が、助けてくれることもありますよ。この冬も、皆さんに素敵な本との出会いがあることを願っています。

図書館司書 楠

校内読書週間



これは…
チャ～ンス

12月13日(月)～12月24日(金)

返却は冬休み明けの1月7日(金)まで

上記の期間、10冊貸出を行います。この機会にたくさんの良い本を探して借りてください。期間中は何度でも返却、貸出できます。読み終わった本だけを返し、新たに借りることもできます。ぜひご利用ください。

借いたままに

なっている本

ありませんか？



図書館の本の貸出期間は2週間です。返却期限を過ぎて、そのまま手元に置いてある本はありませんか？

心当たりの方は、図書館入口わきの返却BOXか、カウンターの図書委員まで返却をお願いします。

一冊の本が、より多くの人の役に立つように、ご協力をお願いします。

千の扉あけて 第7章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『シラノ・ド・ベルジュラック』

エドモン・ロスタン 著
岩波書店

953
□

日に日に寒くなり、日暮れが早くなっていくasにつれて、理由もなく胸がギュウツとなるような寂しさを感じることがありますね。ありませんか。ありますよね。

そこで今回は、恋の物語など紹介しましょう。フランス文学、それも戯曲(ぎきょく：演劇のセリフとト書きで書かれたお話。ドラマの台本のようなもの)です。



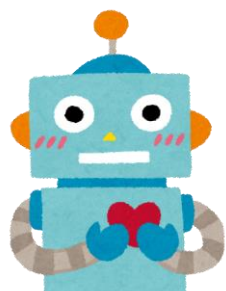
舞台は17世紀。シラノは無双の剣士で、少しケンカっ早いけれども心優しい詩人で学者という多才ぶりで、皆に一目置かれる男。しかし人並み外れて大きな鼻を持っていたがために、自分の容姿に自信がありません。

シラノは美しいとこのロクサア叉に恋していましたが、彼女はイケメンなクリスチャンに夢中で「彼との仲を取り持って欲しい」と、なんとシラノに頼みます。

ところがクリスチャンは見た目だけで、恋を語る才能ゼロ。シラノが代筆したラブレターにメロメロのロクサア叉は、クリスチャンと結ばれます。しかしやがて戦争の影が…。

その先はぜひ読んでみてください。悲しいお話ですが、不器用でも誠実な愛を貫くシラノの生き様には、憧れを抱かずにいられません。100年以上前に書かれた作品ですが、今も繰り返し舞台化、映画化され続けている名作です。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



新刊 PICKUP !

図書館に届いた本の中から、おすすめをピックアップ。
新刊コーナーやカウンター、図書館入口のパネルに展示していますので
ぜひ手に取ってみてください！

『棒人間図解大全』

MICANO 著 726 ミ 自由国民社



誰でも一度は描いたことがあるけれど、意外と難しい「棒人間」。各地で「棒人間の描き方教室」を開催するイラストレーターの著者が、日常のコミュニケーションに役立つ「棒人間」の使い方、感情や動きの表現方法を教えます。

楽しんで描いているうちに、イラストが上達するヒントが満載です。

『土偶を読む』

竹倉史人 著 210 夕 晶文社



縄文時代に大量に作られた土偶。130年以上にわたって研究されてきましたが、その正体はいまだに謎が多いまま。そんな中、著者は土偶の姿が様々な自然物をモチーフに作られた可能性に気づきます。クルミの殻やトチの実、貝殻やサトイモなどと土偶の姿を見比べると、「言われてみれば確かに似てる！」といたくなります。世紀の大発見か、それとも…あなたはどう思いますか？

『方向音痴って、なおるんですか？』 吉玉サキ著 448ヨ 交通新聞社



ライターの吉玉サキさんが、自身の方向音痴を克服すべく、専門家の知識を借りたり、地図やアプリを駆使して試行錯誤する一年間の様子を描いたエッセイ。

私も極度の方向音痴なので、全てのエピソードが「わかるわかる！」の連続。そうでない人には、「何を言ってるのか全然ワカンナイ」という感覚を楽しんでいただけます。

果たして方向音痴は、なおるのか!?

『街どろぼう』

Junaida 著 Eマ 河出書房新社



大きな山のとっぺんで、さびしく暮らしていた巨人。ある夜、街へ降りて、家を一軒こっそり持ち帰ってきました。「これからは、ここで一緒に暮らしましょう。ほしいものは、なんでもあげますから」…それで巨人は、さびしくなくなったのでしょうか？

「孤独」や「友達」の意味について考えてみたくなる、絵も物語も装丁も美しい絵本です。